

週報みえぎよれん

★浜に身近な話題をお届けする関係者向けミニ情報誌★

編集・発行

JF 三重漁連指導部

TEL:059-228-1205

FAX:059-225-4511

本紙は三重漁連ホームページ (<http://www.miegyoren.or.jp/>) での閲覧を推奨します (PDF ファイル)。

県漁業士会・漁青連・女性連研修会
-2/16 (火) 三重漁連のり流通センター-

2月16日(火)、三重県漁連のり流通センター(松阪市)に於いて、三重県漁協青壮年部連絡協議会・三重県漁協女性部連合会・三重県漁業士会の3団体の相互理解を深め、会員のスキルアップや各会の活性化及び団体間の連携を図ることを目的とした、初めての合同研修会が開催され、3団体の会員及び事務局を含めて34名が参加した。開会后、主催者を代表して、三重県漁業士会の田辺会長、来賓の代理として、三重県漁連 服部参事が挨拶。その後、各会の会長がそれぞれの活動報告を行い、続いて東京海洋大学 工藤貴史 准教授が「これからの漁村の活性化—協同の力を発揮する—」と題して、講演を行った。その後、「これからの漁村の活性化に向けてできること」をテーマに参加者が5班に分かれ、それぞれの浜の問題点や将来目指すべき方向等活発な意見を出し合った。



会場の のり流通センター

第 41 回全国海水養殖シンポジウム
-2/9 (火) 熊本キャッスルホテル-



2月9日(火)、熊本県熊本市の熊本キャッスルホテルに於いて、第41回全国海水養殖シンポジウムが、「養殖新時代に向けて—養殖魚の地位向上と売り込み作戦—」をテーマで開催され、全国から魚類養殖業者とその関係者300名以上(三重県からは14名)が参加した。

開会にあたり、(社)全国海水養殖協会の嶋野勝路会長の挨拶の後、鹿児島大学水産学部の佐野雅昭教授による「日本の水産養殖の現状と展望—市場から見た養殖魚の可能—」と題した講演があり、「海外市場開拓に官民のエネルギーを集中させるうえで、全海水が果たす役割は大きい。」と主張した。その後、養殖魚需給検討会の結果についてと代表者会議の報告として、平成28年度養殖計画や昭和40年からの養殖魚類の収穫量推移、平成18年からの魚種別の入荷量と相場の推移等の説明及び平成27年度

輸出事業に関する取組報告があり、盛況のうち閉会となった。なお、42 回目となる次年度のシンポジウムは、香川県で開催されることとなっている。

三重県農林漁業就業・就職フェア 2016
-2/13 (土) 三重県総合文化センター-

2 月 13 日 (土)、津市の県総合文化センターに於いて、「三重県農林漁業就業・就職フェア 2016」が開催された。

この就職フェアは、県農林水産支援センターが主催するもので、就職希望者と事業者・団体等を繋ぐ目的で 2001 年から年 2 回開かれていて、今回は、25 業者、12 団体がブースを設け、約 100 名の来場者が訪れた。最近は、マスメディアの影響もあり、「海女漁（海士漁）」に興味を持つ人の問い合わせが多く見受けられるが、今回も女性 2 名が海女漁就業の相談があった。その他にも、漠然と漁業に興味がある方、独立自営を望む方など、県内外から様々な目的を持った人がブースを訪れていた。



各ブースの面談の様子

新規就業者育成・座学研修
-2/13 (土) マリーナ河芸-

2 月 13 日 (土)、津市河芸町のマリーナ河芸に於いて、漁業の担い手人材育成・確保事業【新規就業者育成コース】の第 7 回座学研修が開催され、9 名の新規就業（予定）者が出席した。

今回は「水産物の流通（三重県漁連 井村参事）」、「漁労作業の注意点（白塚漁協 伊藤彰啓氏《青年漁業士》）」、「漁労器具（尾鷲漁協理事 濱田浩孝氏《指導漁業士》）」の各講師による 3 つの講座が開催され、参加者は皆、熱心に耳を傾けていた。今後、3 月までに残り 2 回（5 つの講座）の開催が予定されている。



バッチ網漁の説明をする伊藤氏



定置網漁の濱田氏



三重県漁連 井村参事(左)

【主な予定】

○2 月 26 日 (金)

黒のり 6 回汐 (松阪・のり流通センター)

○2 月 27 日 (土)

第 3 回尾鷲早田寒ぶり祭り (尾鷲市)

本文の無断転載・転用等は固くお断りします。